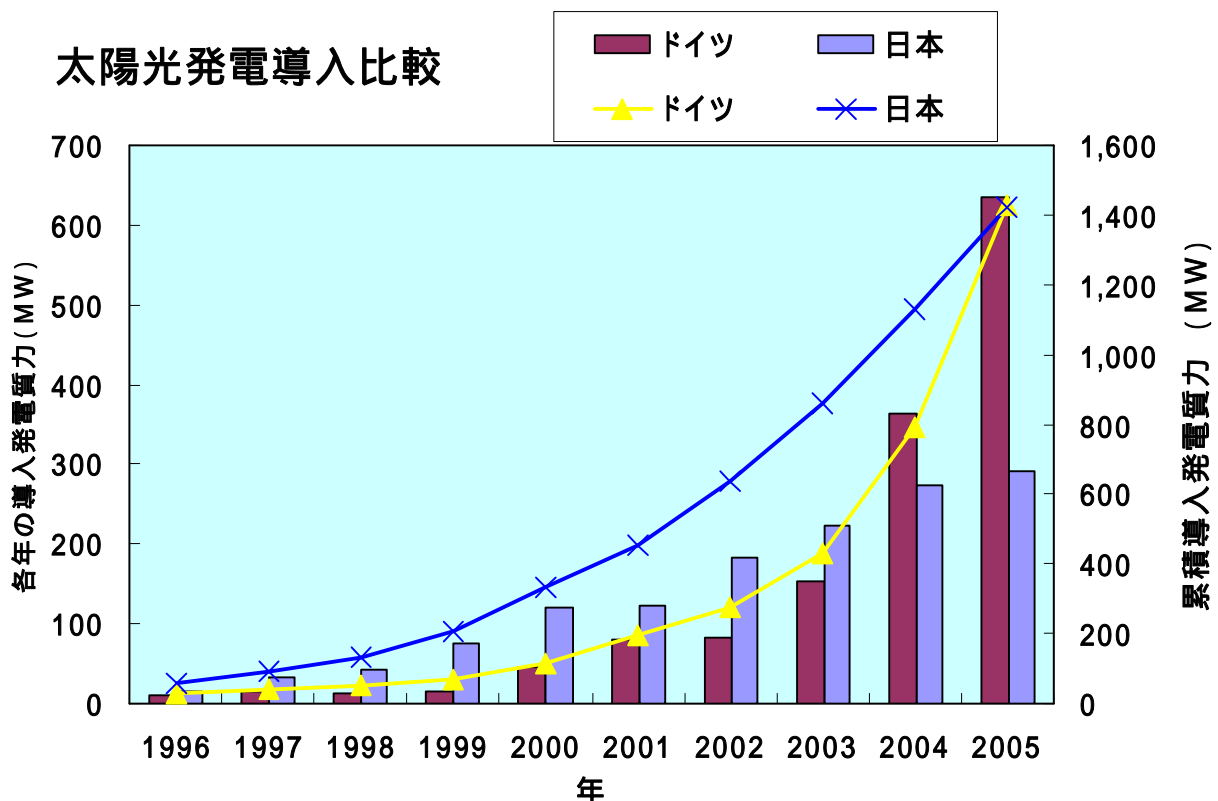


太陽光発電に関する弊社の考えについて

最近「20世紀」が終わった感が有りますが、もう後三年で「21世紀の10分の1」が終わってしまいます。本格的に一般住宅へ太陽光発電の普及活動が始まり、12年を経過していますが今だ戸建て住宅の1%にしか自然エネルギーの利用は普及していません。この状況では戸建て住宅の30%（国の試算では、戸建て住宅の72%の住宅に平均3.7kWの太陽電池が設置出来るとしています。）の普及にさえ300年を要する計算になります。一方、これまで使い続けてきたエネルギーは、石油が43年、天然ガス62年、ウラン64年、石炭212年で枯渇すると言われていています。また、これらエネルギーを使うことにより、二酸化炭素が急速に増え、地球温暖化が加速し、至る所で異常気象が現実起きています。20世紀は「エネルギーを消費し、地球に落書きした時代」でしたが、21世紀は「循環エネルギー・自然エネルギーで、地球の落書きをキレイにする時代」に変えて行かなければなりません。本来、エネルギーは国の発展の根幹となる産業なので、政府指導で推進をして行かなければなりません。電力事情を民間の電力会社に押し付けるのではなく、迷惑公共事業に使う投資を「21世紀のエネルギー変換」へ向けるべきだと思います。現在、太陽電池の生産量は、日本がトップで世界の約半分を占めています。ところが、太陽光発電の導入状況はドイツが1,429MW（累計）に対し、日本は1,422MW（累計）と、僅か2年間で抜かれてしまいました。原因は、日本政府が補助金を廃止したのに対し、ドイツ政府は自然エネルギーの高価（日本の3倍）買取を決定したことによります。

2006年エネルギー-白書より



政府の取り組み方ひとつで、意図も簡単にエネルギー事情は変わってしまいます。ただ私達も政府を当てにするだけでなく、今、小さなお子様の10年・15年先を見据え、エネルギー変換に参加しなければなりません。私達は、電気は買うもの・消費するものと思っ込んでいます。また、太陽光発電を儲かる儲からないの対象でしか見ていません。太陽光発電は、電気を作るためのシステムで、子供たちの将来のためにも、自然エネルギーの利用を加速して行かなければなりません。その為には、私達も「**電気は、買うもの消費するものから電気は自給するもの**」へ意識を変えて行く事が大切だと思います。私達は、車を10年もしないうちに買い換えます。車を維持するには、ガソリン代・駐車料金も掛かります。車を買っても、通勤には他の交通機関を使います。元を取るために、車を購入するひとは、殆どいないと思います。太陽光発電システムは、車を購入する価格で設置することが出来ます。太陽電池は、電気を作り、電化製品を動かし、社会貢献・節約意識を与えてくれ、自給自足の満足感を与えてくれます。太陽光発電は、ご家庭の経済効果だけでなく、暮らしの中でエネルギー・地球環境への意識変化と齎してくれると確信をしております。

2006年エネルギー-白書より